

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報

2003-03

発行日：平成15年3月7日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp

Homepage =www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/

目次

Opinion	1-2
都市に多くの市民広場を！	
News Letters	2-4
事業報告・活動報告	
Announcement	5
研究会・催事の御案内	
Backyard	5-6
事務局通信	

Opinion

都市に多くの市民広場を！

堀江 興

近年、日本の多くの自治体は、魅力のある都市を形成するために、さまざまなアイデアを盛り込んだ計画を立案し、多くの技法を使って、その実現を図っている。これらの計画は都市全域に及ぶものではないが、緑・水等の景観上の要素を積極的に採り入れ、時としては夜間のライトアップ化もはかり、安全で快適な市民等から親しまれる空間形成になることが期待される。

しかしこれらの計画の多くは、それ自体優れていることは認められるが、市民が存分に憩いあるいは集える場、イベントに興ずることのできる場としての広場空間が確保されているものとなっていない。日本は土地問題等の厳しい制約条件があるため、やむをえない面があるとはいえ、フランス、ドイツ、イタリア、チェコ、メキシコ等数多くの都市につくられているさまざまな規模の広場は、市民生活に不可欠で、訪れる人にとっても魅了してやまないものがある。

かつては多くの人に恐れられたモスクワの赤の広場周辺一帯でさえもいまや大変身を遂げ、プールや噴水がつくられ、衛兵の傍では木蔭でまどろむ若者達も多く、レストランや高級商店街で賑わうなど時代の変遷を痛切に知らされる思いがするところもある。

元来、日本では市民のために広場をつくるという発想は少なく、明治以降今日までひたすら、立ち遅れていたインフラの整備や改修あるいは災害復旧や防除、戦禍からの復興等に追われることが多く、市民のための広場を都市の中につくりあげるということは許される状況になかった点が悔やまれる。

かねてから日本では、鉄道駅を中心として広場がつくられてきており、その都市の一つの顔ともなっているが、これは主として交通機能を果たすためのものであり、市民の「人間生活の質」を高めるものではない。

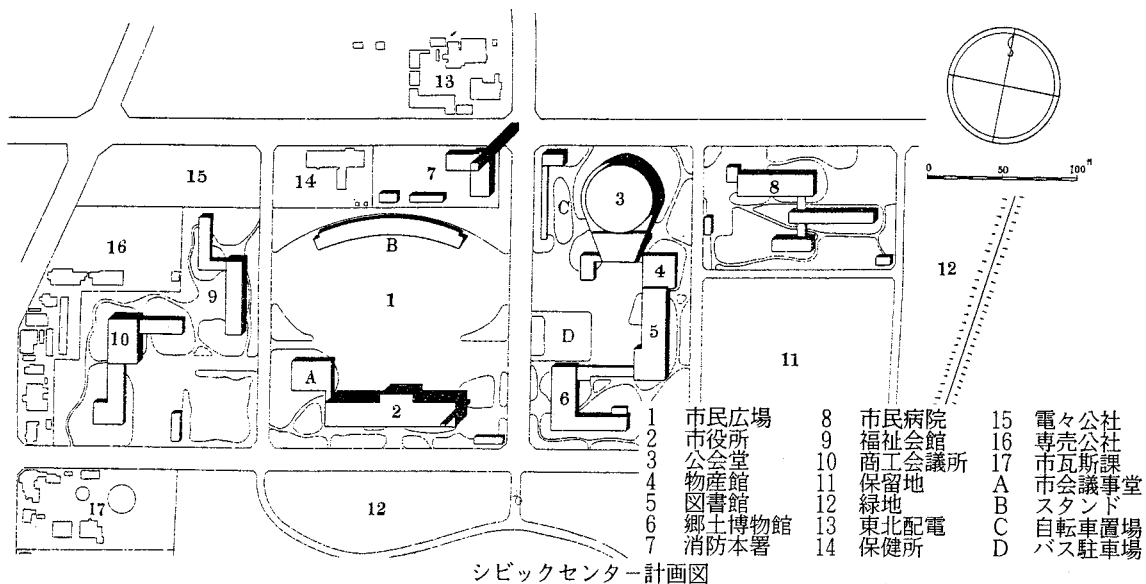
日本に都市計画上広場が必要であることを強く主張した人の一人に、先達石川栄耀氏を挙げることができる。石川氏は生前、全国で都市内広場の必要性を説いて回ったと考えられ、大学等の講義でも広場の重要性を力説されていた。筆者がいま教えている新潟県柏崎市でも、昭和30年代初頭に石川氏が当時の市長に請われて、高山栄華、五十嵐醇三、横山光雄、日笠端（敬称略）をはじめ多くの人達とまとめ上げた都市計画案でも市の中心に18.6haに及ぶ「シビックセンター」を提唱している。紙数の関係で詳細は割愛するが、次頁の図に示されるように、1.4haの市民広場を、計画案の真中に偣え、その周囲は公共・

公益施設を配置する内容となっている。計画面で示された中心地域は当時未開発の状態にあり、市長がリーダーシップを発揮して少しでも実現をはかっていけば、いまの柏崎市の姿はもっと違った良いものになっていたと考えられる。今日では電力会社を初めとした企業が、この提案された土地に建てられており、国内どこにでもある普通のまちなみに過ぎないものとなっている。また石川栄耀氏は1953年～1956年、沖縄・那覇の都市計画構想の中で「美しい広場」や花壇・緑道を随所につくる必要性を説いているが実現されなかった。

これらのように、日本では都市計画として積極的に広場をつくることがされず、今日に至っている。今後、日本は少子高齢化が進み力強い永続的な国家経済力も余り期待できない状況にある中で、21世紀の都市づくりの中で、市民のための優れた広場を可能な限りつくっていくことが重要であると筆者は考える次第である。

(計画・交通研究会正会員 /

新潟工科大学教授)



シビックセンター計画図

出典「柏崎都市計画立案報告書」日本都市計画学会

News Letters

事業報告・活動報告

2003年1月定例研究会
 (土木学会認定CPDプログラム)
 日時: 1月27日(月) 18:00~20:00
 場所: 計画・交通研究会会議室
 テーマ: 「自然再生のための都市緑化の実際」
 講師: シェアリングアース協会
 代表 藤本和典 先生
 司会: 埼玉大学 教授 窪田陽一 先生

【講演概要】

公園や街路樹など都市の緑化は、何を基準に植栽されてきたのだろうか、例えば、緑が濃く温暖化した都市にピッタリで都市緑化によく使われるクスノキは、幹の直径は何センチで枝は何本に枝分かれしていてと選ばれているが、これでは見栄え重視だけの緑化といえるであろう。好きな木ベストワンになった

このあるハナミズキは住宅地のいたる所で植えられている。アメリカ西部の乾燥した高温の山地に自生する木であった。花が美しいと人々に愛でられても、新芽がのびて葉が展開すると梅雨期の高温多湿な時期は一番嫌いな環境である。弱った葉の大部分は白いカビ状のウドンコ病にかかってしまう。日本でせっかく植えられたハナミズキはストレスをいつも感じているのだ。

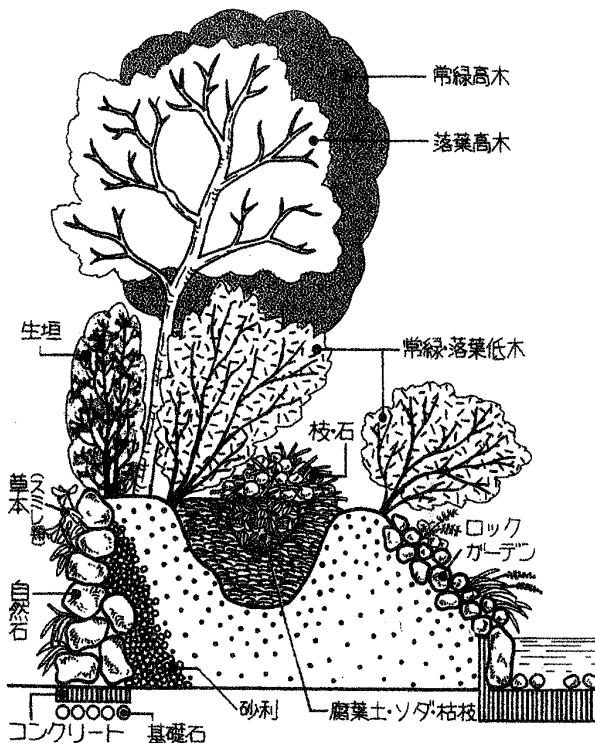


藤本和典 先生

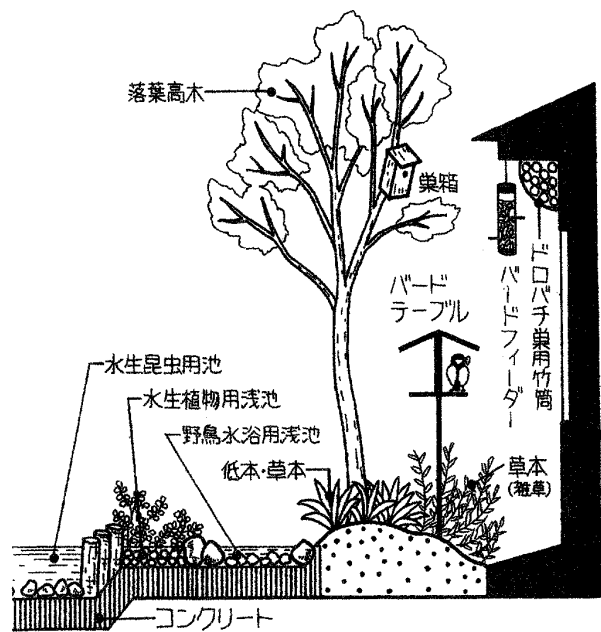
では、どんな木を植えたら良いのだろうか。それは、本来その地域に自生していたであろう木が一番といえる。雑木林や社寺林などに残る木々、すなわち今キーワードにもなっている“里山”の緑が基本なのだ。花が美しいのはコブシ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、そして樹形の美しいのはリョウブ、エゴノキなどとたくさんある。そして、これら里山の木は、外国から来たヒマラヤスギやメタセコイヤが20～30種類の生物の利用でしかないのに対してコナラやクヌギなどではなんと300～600種類以上の利用があるのである。

かぎられた都市空間の緑化を行うなら本来その地域にあったと思われる木々を利用したほうが、あたりまえのことであるが病害虫に強いのである。このような緑化を積極的に行うことは生物のつながり（生態系）を取り戻すことができるし生物多様性の回復と地球環境に対してプラスの効果の結果として残せることにつながると言える。

生き物と呼ぶビオトープの庭のモデル例



常緑高木：スダジイ・クスノキ・モチノキ・ネズミモチ
 落葉高木：エノキ・ムクノキ・コナラ・ハンノキ・ミズキ・クサギ・カラスザンショウ・ヤマザクラ
 常緑・落葉低木(生垣)：エシキギ・ムラサキシキブ・ガマズミ・イタイイボタノキ・サンショ



草本：ギボウシ・スミレ類・カワラナデシコ・ヤブラン・ツユクサ・ジャノヒゲ ◎ツワブキ・シュンラン・ミズヒキソウ
 湿性・水生植物：セキショウ・セリ・クサヨシ・ハッカ・ミソハギ・フトイ・ヨメナ・コウホネ・オモダカ・ウキクサ・コナキ・ヒルムシロ・フサモ



鳥を呼ぶ実のなる木を植栽した軽井沢塩壺温泉ホテルの庭のえさ台はイカルがやってくる



ふる里の木を植栽した緑地には美しい渡り鳥キビタキも立ち寄る
(藤本和典先生 撮影)

2003年2月 首都高大宮線工事現場見学会

日時：平成15年2月5日(水)

13:30～16:00

見学箇所：首都高速大宮線 新都心地区トンネル工事現場、見沼地区建設予定地

行程：13:20集合(さいたま新都心駅)、13:35～13:45バス移動(さいたま新都心駅トンネル工事現場JV事務所着)、13:45～14:00(概要説明)、14:00～14:15トンネル工事現場地上部見学、14:15～14:40トンネル内部見学、14:50～15:15バス移動(新都心地区 見沼地区)、15:15～15:30見沼地区建設予定地見学(ビオトープ)、15:30～16:00移動(見沼地区 さいたま新都心駅)、16:00さいたま新都心駅着 解散

移動：大型バス1台(東武バス)

現場対応者：首都高速道路公団 東京建設局 建設第二部長 長谷川和夫氏、埼玉工事事務所 工事調整課長 小林 茂氏、工事第二課長 荒殿義人氏、工事調整課長補佐 大塚秀樹氏、清水・白石・間JV 下間所長

参加者：事務局長 窪田陽一(埼玉大学教授)以下会員16名

当日は天気も良く、2月としてはあたたかく見学会日和に恵まれた。

最初に現場事務所(清水・白石・間JV)に

て工事概要の説明を受けた。長谷川部長のご挨拶のあと、小林課長の司会で進められ、荒殿課長、下間所長が説明。当該工事は首都高大宮線の中、JR西京線をアンダーパスする地下道路トンネルで、ニューマチックケーソン工法にて構築、ケーソン6函体で接続箇所6ヶ所(内5ヶ所は圧気掘削)である。重要構造物(JR新幹線橋台・埼京線高架橋橋脚等)との近接する工事であり、ケーソンの据え付け誤差は水平・鉛直方向ともに $\pm 50\text{mm}$ 、沈設中の函体の揺動を小さくして近接構造物への影響を抑えるよう注意を図っているとのこと。

この後、トンネル現場地上部、トンネル内部、地上遠隔操作室・モニター室を見学。

また、大道橋より見沼地区建設予定地(見沼田圃・ビオトープ)も見学した。



トンネル工事現場内部の視察

第25回通常総会・懇親会

日時：平成15年4月16日(水)
 総会 18:00～19:00
 懇親会 19:00～20:30

場所：プラザエフ(主婦会館)

総会議案

第1号議案 平成14年度事業報告および収支決算に関する件。

第2号議案 平成15年度事業計画および収支予算に関する件。

その他

本件の詳細は、平成15年2月21日付け文書にてご案内済み。ご出欠は同書状に同封の八ガキにて3月31日(月)迄に事務局までご回答下さい。

計画・交通研究会 / 「当て塾」共催セミナー

- 第II講「観光の学と術の研究開発の整理」
 開講のお知らせ -

会報2003-01で予告いたしました通り、下記によって、共催セミナー第II講を開講いたします。セミナー推進幹事は鈴木忠義、中村良夫、安島博幸、林清 各先生です。

参加希望者はファクシミリまたはEメールにより“共催セミナー参加希望”と明記の上事務局までお申し込み下さい。各回定員は前

回同様約25名(当て塾会員を含む)。

第1回

(土木学会認定CPDプログラム)

日時：平成15年4月23日(水)

17:00～18:30(18:30から懇談)

場所：計画・交通研究会会議室

講師：鈴木忠義 先生

テーマ：「研究開発の枠組とそのねらい」

講義内容：

「観光原論」の位置づけ

1	2	3	4
観光原論 1. 人はなぜ旅をするのか 10. 観光の学習・研究 文献・資料・年表	開発・経営論 各論 自然系 歴史系 文化系 文系 海温 都市 温泉 市景 岸線 市景 下	観光手法群 観光行動予測法 資源調査法 景観工学 観光地の設計 観光経営	周辺諸学 文化人類学 行動科学 法学・経済・社会 国土・地域・都市計画 まちづくり

参考：鈴木忠義「観光の学と術の体系」日本観光研究学会発表論文集，No.1，1987

なぜ原論をやるのか

第2回、第3回の開催予定

第2回・5月14日(水) 17:00～18:30

第3回・5月28日(水) ”

Backyard

会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)液晶プロジェクター(APTi)が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し

事務局通信

出し用ノート型パソコン(IBM Think Pad) FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。(別途ホームページにて部屋の空き状況がわかり、申込みも容易にできるようなシステムを検討中)

個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員（地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい）が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
体裁は本号4ページを御参照下さい。

・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。日時・会場・事務局等を明記願います。

・ **Report** : 報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

原稿執筆上のご注意

原稿のテキストファイルを電子メール（推奨。本文挿入または添付ファイルで）あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さいようお願いいたします。

編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍（上限4単位＝1ページ分：表題・図表を含む）になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。

写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。

締め切りは偶数月の15日（必着）です。

URLアドレスの変更

URLアドレスが変わりました。よろしく願います。

新：<http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>

旧：<http://www06.u-page.so-net.ne.jp/sa2/easts/>

計画・交通研究会

会長	中村 英夫
副会長	黒川 洸
副会長	森地 茂
事務局長	窪田 陽一
会報編集委員長	天野 光一
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

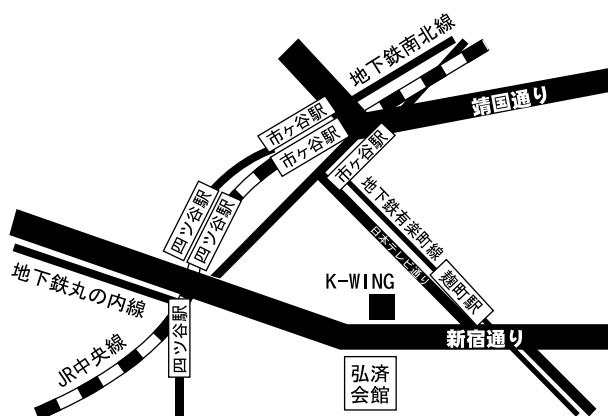
東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp

Homepage = <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅下車徒歩5分 / 営団地下鉄丸の内線四ッ谷駅下車徒歩5分 / 営団地下鉄南北線四ッ谷駅下車徒歩6分 / 営団地下鉄有楽町線麹町駅下車徒歩4分